

会報

第54号

いまだ青春

編集発行

公益社団法人
萩広域シルバー
人材センター

～生きがいと地域のニーズを結びます～



「萩陶会」会員作



	監						理	理
	事	事	事	事	事	事	事	長
職	松	藤	吉	村	堀	長	長	中
員	原	村	屋	田	永	谷	岡	村
一	宏	季	哲	郁	孝	義	繁	隆
同	征	志	夫	子	春	明	雄	次
								敏
								雄

平成三十一年 元旦



新年のご挨拶



萩市長
藤道 健二

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平素より、会員の皆様には、豊富な知識と経験の活用により地域の活性化にご尽力いただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

一昨年の三月に市長に就任し、一年半余り市内の各地域の行事に参加、また、各地域で開催しました「市民ファースト」の理念を再認識、実現に向けた努力を行うことを、改めて決意したところでございます。

さて、国内景気はアベノミクスによる回復基調が続いてはいるものの、萩市においては、少子高齢化や若者流出に伴う地域の活力低下をはじめ、特に主要産業である第一次産業分野において、後継者等の担い手不足や労働力不足が続くなど、地域経済を取り巻く環境は依然厳しいものがあります。

萩で生まれた若者が萩で働く、また、多くの

人に萩に移り住んでもらうには、産業再生による雇用の拡大が必要不可欠です。そのためには、子育て支援や教育施策の充実を図り、若い世代に魅力を感じてもらえることが、定住促進と地域のコミュニティの活性化につながるものと考えています。

萩市では、二〇一八年からの十年間の計画として、萩市の将来像やまちづくりの方向性を市民と共有し、市民と行政が一体となって進めるまちづくりの指針となる「萩市基本ビジョン」を策定し、市民、民間団体、企業、行政等が互いに連携し、萩市の目指す姿である「暮らしの豊かさを実感できるまち」を目指してまいります。

その実現のためには、会員の皆様の就業を通じた健康維持や社会参加が必要です。あらゆる世代の誰もが就業に対する意欲をもち、適材適所で能力を発揮することにより地域活性化に繋げるには、会員の皆様の豊富な知識と経験を若い世代が継承するというサイクルが、地域社会において今後より一層重要なものとなると考えております。

萩市は昨年「明治維新150年」の節目の年を迎えました。また、九月にはかねてからの念願でありました「萩ジオパーク」が日本ジオパークに認定されました。今一度「歴史と大地の胎動の地」として今までの萩市の姿を振り返り、今後もおお一層、市民の皆様が主役となった未来を創る活動に取り組み、次世代に繋がる各種施策を行ってまいりますので、皆様のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

貴センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸、更なるご活躍をお祈り申し上げます。新春のご挨拶といたします。



理事長
中村 敏雄

皆様にはお健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平成もいよいよ本年四月三十日までとなりまして、このお正月は平成時代最後のお正月ということになりました。

昨年一年間は、酷暑、酷暑に加え各地での集中豪雨、数多くの台風発生と異常気象の連続でありました。

特に夏場での暑さは尋常ではなく、萩地域においても八月六日には観測史上最高となる三八・三度を記録したところでございます。

そのような異常気象の一年であったにもかかわらず、会員の皆様には一年を通して元気にセンターのお仕事をしていたいただき、感謝の念に堪えないところでございます。

さて、会員の皆様センターでの就業を通じてどれほど社会貢献をしているかについて検証してみました。

少し古い統計数値になりますが、全国シルバー人材センター事業協会によると、平成十八年七月の「高齢者の社会参加と健康維持・増進に関する調査」の結果、シルバー人材センターを通じて就業している会員の一人当たり医療費の推計値は三十五万八千円、一般の高齢者四十一万八千円に比べ、年間で六万円少なくなっていることが分かりました。

これを萩広域シルバー人材センターに置き換えてみますと、平成二十九年度末の会員数は四七七人でありますので、医療費については会員全体で二、八六二万円の財政軽減に寄与していることとなります。また、治すことが難しいとされている認知症につ



阿武町長
花田 憲彦

明けましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、会員の皆様には「自主・自立、協働・共助」の理念の下、地域社会の活性化に貢献されておられることに、敬意と感謝を申し上げますとともに、私も行政の数々の業務につきましても多大なご支援・ご協力をいただいております。ここに、心から厚くお礼申し上げます。

さて、本町におきましては、昭和三十年の昭和の大合併の際に最重要課題と位置づけられておりました、主要地方道国道益田阿武線（福賀、奈古間）の道路改良工事が六月に完成し、七月十日には供用開始を記念して完成式典を開催したところであります。この路線の改良に当たりましては、長年にわたり県に要望を行ってきたところでありますが、合併から六十三年余り経過の完成であり、福賀、奈古間の物流はもろろんのことです。また、通勤通学におきましても距離と時間が短縮される上、安全と安心が確保されるものであり、これまで改良促進に向けご尽力されてこられました関係者の皆様方には、心から感謝申し上げます。

また、住民基本台帳における本町の人口につきましては、つい三、四〇〇人を割ることになったところであり、まことにぎわいがあります。美容店、商店街の小売店、自転車販売店や自動車の整備工場、ガソリンスタンドな

どが徐々に廃業を余儀なくされる状況の中、人口が減少しても地域が豊かで、地域経済が衰退していないような「縮充」の意識を持った参加型の町づくりを推進していくことが必要と感じているところであり、阿武町版総合戦略の「選ばれる町をつくる」を推進していくため、今年度からは、衣食住に関する実証実験を開始したところであり、新たな「仕事づくり」に向けてあらゆる努力を集結していかねばならないと考えているところであります。

このような中、季節ごとにおける「仕事づくり」としての、「二／四 Jobs」を進めておりましたところ、福賀のスイカ栽培に対し二名の若者の応募があり、四月から八月までの五ヶ月間にわたり、地域に住み込んでアルバイトを受入れたところであり、この取組が次の年に繋がるような仕組みに充実するなど、必要があると思いを強くしたところであります。

なお、貴団体におかれましては、地域住民の高齢化、企業の定年延長などの要因により、会員不足が懸念されている中、本町におきましては建物管理業務をはじめ、コミュニティワゴン運転業務、園児送迎業務、清掃管理業務などを始めとした多くの業務におきましてご貢献をいただいているところで、会員の皆様のご活躍が地域にとってなくてはならない存在となっております。

今後、地域社会において、高齢者の役割は益々重要になって参ります。皆様の卓越した技術と豊かな経験が、地域に更に活かされること、また、地域の活性化につながることを切に願っております。

終わりに、萩広域シルバー人材センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝で一層のご活躍されることを心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

いても、一般的には仕事を持っている人の方が認知症になりにくいと言われていることから、働くことにより結果として認知症予防にも繋がっているものと考えられます。

このほか、就業により元気を維持し、介護予防にも効果を上げていられるものと思われ、医療財政に限らず介護財政の軽減にも少なからず寄与しているものと考えられます。

ご承知のとおり、日本の人口は平成二十年を境に増加から減少に転じました。これにより、今後労働力人口の減少が見込まれます。

今の国内の生産性を今後も長く維持するためには、不足する労働力を誰かが補わなければなりません。それを担うのが、高齢者であり、女性の労働力になります。

このように、医療財政や介護財政の負担軽減にとどまらず、労働の担い手の確保という観点からも、今後シルバー人材センターが社会において果たすべき役割はますます大きくなるものと考えられます。

どうか、そういう意味においても、会員の皆様にはセンターでの就業を通じ、今後とも元々な生活を維持し地域社会へ貢献するその一翼を担っていただければと願っております。

終わりにあたり、本年亥年が災害や事故のない平穏な一年になりますよう、また会員の皆様そしてご家族の皆様にとりまして最良の年となりますよう心より念じまして、新年のごあいさつといたします。



認知症サポーター養成講座・サンライフ萩

生活習慣病対策や脳の活性化を図ることにより発症のリスクを少なくすることや支援の重要性など基礎知識の聴講後、「認知症サポーター」の目印である「オレンジリング」を受け取りました。

衛生委員会では、今後もうした健康についての講習会を開催し、みなさんがいつまでも健康でいられるよう努めていきたいと考えますので、ぜひ参加してください。



健康診断は、生活習慣病をはじめ、さまざまな病気の早期発見・早期治療はもちろん、病気のものを予防することもできます。

会員募集

「会員一人一会員獲得運動」について協力をお願いします

会員数の減少が続いています。センターとしても今年度から新たに夫婦ともにシルバー会員の世帯の会費の減額やゴールド会員制度を導入する等、会員の拡大に向け従前にも増して各種の取組みを行っていますが、なかなか会員の拡大に結び付きません。

これに対し、景気の回復が続き良好な雇用環境下のもと、人手不足の状況が続く中、高齢者の労働力が強く求められており、高齢者に就業機会を提供するシルバー人材センターならびにシルバー事業に対しては、地域社会から大きな期待が寄せられています。

萩市・阿武町にお住まいの、健康で働く意欲のある六十歳以上の方であれば原則、どなたでも会員になれます。会員の皆さんにおかれましては「会員一人一会員獲得運動」として、周囲のご友人やお知り合いの方々に、シルバーの会員になっていただくよう、入会の声掛けをよろしくお願いします。

(資料1) 平成30年度の会員の入会・退会・月末会員数の状況(4月~3月)

Table with 12 columns: 参考30年3月, 4月, 5月, 6月, 7月, 8月, 9月, 10月, 11月, 合計, 入会者数, 退会者数, 月末会員数 (男, 女).

※()内は平成29年4月~平成30年3月の1年間の合計

(資料2) 平成30年度の事務所別の会員数の状況(4月~11月)

Table with 12 columns: 参考30年3月, 4月, 5月, 6月, 7月, 8月, 9月, 10月, 11月, 3月からの増減数, 萩事務所, 阿武出張所, むつみ出張所, 須佐出張所, 田万川出張所, 合計.

※数値は各月末の会員数

普及啓発・周知普及及び入会勧誘活動

「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間(十月)」中の取り組みの一環として、シルバー事業の意義、事業活動等を広く地域住民に周知し、シルバー事業への理解・協力を求めるとともに、高齢者のシルバー人材センターへの入会促進を図るため、去る十月二十日、市内の大型店舗の店頭において、萩地域の役員の方々のご協力を得て、チラシ配布等の普及啓発活動を実施しました。



後日、当日配布されたチラシを見て、入会説明を受けたいとセンターに来られた方もあり、今後もこうした活動を継続していき、シルバー人材センターの周知を図るとともに会員増強につなげていきます。



派遣労働者教育訓練の開催

「労働者派遣法」の改正(平成二十七年九月)により、本年度も派遣就業会員を対象に十月十八日、サンライフ萩において、派遣労働者教育訓練が開催されました。

前半は、「認知症サポーター養成講座」と題して、萩市西地域包括支援センターの大賀保健師と細田主任作業療法士の両講師より、いまや超高齢社会を突き進むわが国の最重要課題である「認知症」について講義を受けました。

衛生委員会

健康講習会の開催

今年度、(公社)山口県シルバー人材センター連合会を派遣元事業主として、(公社)萩広域シルバー人材センター内に置く実施事務所(萩広域事務所)にシルバー派遣事業衛生委員会が設置されました。

目の病気、加齢による目の症状などの説明を受け、循環器疾患、認知症、老衰、糖尿病などさまざまな病態のリスクに目の異常が結びついていることや白内障は加齢が大きな要因となつて発症する疾患であり、白髪と同じように誰もが年をとれば必ず発症する

健康管理

について

普段の食事や適度の運動を通して、日々の健康管理に努め、定期的に健康診断を受診しましょう。

健康診断は、生活習慣病をはじめ、さまざまな病気の早期発見・早期治療はもちろん、病気のものを予防することもできます。

健康診断等については、自治体による補助制度もあり、市町の広報誌等を通じ案内され、診断結果等は保管し、発注者から求められた時は説明できるように心がけてください。

また、個人で医療機関を受診された際の診断結果も役立ちますので、保管をお願いします。



今年度の萩広域シルバー人材センターの独自講習会として十月三十日にサンライフ萩で、十一月十六日に萩市須佐保健センターで「シニア活き活きヘルスケア」を開催しました。

サンライフ萩会場では、最初に山口ヤクルト販売株式会社の社員による山口ヤクルト健康教室「ウン知育教室」があり、便について「作る」「育てる」「出す」の三つのチカラをテーマに講師の面白おかしい説明もあり、受講者みな楽しい雰囲気学び、最後には腸周りの筋肉を鍛える腸トレ体操も行い、健康のパロメーターである便について正しい知識を身に付けることができました。

後半は、萩市西地域包括支援センターの細田主任作業療法士を講師として「転倒予防教室」の講義を受けました。高齢者の寝たきりや要介護の原因になりやすいとされる転倒事故について簡単な体操も交え予防法を学びました。須佐保健センター会場においても同様に、前半は山口ヤクルト販売株式会社の社員による「ウン知育教室」を行い、後半は萩市東地域包括支援センターの赤木作業療法士を講師として「転倒予防教室」を受講しました。

両会場とも和気あいあいのうちにとても楽しく学ぶことができ、自分の健康について見つめ直すいい機会になったのではないのでしょうか。

シニア活き活きヘルスケアの開催



安全巡回パトロールを十月二十三日(火)に実施しました。堀永安安全委員長、中村安全副委員長、中野事務局次長の三名で、萩地域の公共用地の草刈、須佐地域の公園の草刈、田万川地域の農道の草刈、むつみ地域の農道の草刈の四か所の就業現場を巡回し、事故防止対策の状況確認を行いました。

今年度は会員の努力もあり、事故件数は十一月末現在で二件と減少していますが、注意すれば防げる事故です。さらなる安全意識を持つて就業してください。

特に、賠償事故はセンターの信用を損なう原因となります。安全就業は、シルバー人材センターにとって最も重要なことです。

安全委員会だより

事故緊急時の連絡 シルバー人材センター 休日及び時間外

緊急連絡先

- (萩) ☎090-7974-5503
- (阿武) ☎080-5628-9530
- (むつみ) ☎080-5628-9535
- (須佐) ☎080-5611-9328
- (田万川) ☎080-5611-9334

高齢者活躍人材育成事業 （介護送迎業務・介護家事支援） 講習を開催しました



今年度も昨年度に引き続き、(公社)山口県シルバー人材センター連合会が高齢者活躍人材育成事業の講習会を開催しました。高齢者活躍人材育成事業とは、労働力人口減少等により、人手不足分野や、育児・介護等の現役世代を支える分野において高齢者の皆さんに活躍していただくことが重要となっております。このような分野において、高齢者の方がシルバー人材センター会員としてスムーズに就業していただけるよう、シルバー人材センターでの就業を希望する六十歳以上の

方やシルバー人材センター会員を対象に、就業に際して必要な知識及び技能を身に付けていただくための技能講習の実施を内容とするもので、九月七日にサンライフ萩で「介護送迎業務講習」を行い、送迎運転の留意点、送迎車乗降介助等を学びました。

また十月十日、十一日には萩市民館で「キラリ☆シルバー介護家事支援講習」が開催され、高齢者宅での掃除、買物などのポイントとコミュニケーションの取り方、高齢者の食事について調理実習を行いました。

参加された受講者の皆さんは講師の一言一句に聞き入り、熱心に受講されて、今後の活動に生かされるものと期待します。

適正就業に ご理解を!

公益社団法人では、これまでに適正就業についての取り組みが求められています。当センターにおいても平成三十年四月からそれまでの「就業機会の提供方針」及び「就業年齢等に関する方針」を廃止し、新たに「適正就業に関する運用基準」を設けました。

就業日数・就業時間・継続長期就業については、是正や調整を図ってまいりますので、会員の皆様のご理解をお願いします。

また、希望職種の変更や就業可能な仕事等のある方は申し出ください。適性を考慮の上、今後の就業の提供に反映したいと思えます。

継続就業の交替の申し出は早めにご連絡をください。毎年、何人かの会員さんが突然事務所に来られて、すぐにも交替したいという申出がありますが、急には手配もできないだけでなく、発注者にもご迷惑をおかけいたしますので、よろしく願います。

会員親睦旅行に行ってきました



萩広域シルバー人材センター同好会 2018年9月18日 於 別府ホテル三泉閣

に現在の平和と繁栄があることに深く感謝しました。

昼食はバイキング形式で好きなものをチョイス。つついあいれもこれもとお皿に取ってしまい、満腹感絶頂となりました。その後、サッポロビール工場に行き、製造工程を見学した後、お楽しみビールの試飲でしたが、昼食でお腹いっぱいであったため、ビールが進まなかったのが残念。お楽しみ後は一時間高速を走り、別府市の明礬温泉に。お腹いっぱいのはずが、ここでも温泉たまごを味わう姿が。宿に着後、早速お風呂に入り、引き続き宴会。おいしい料理を食べながら大カラオケ大会で盛り上がりました。

二日目、まず安心院のワイン工房に立ち寄り、ワインの試飲。双葉山の生家、中津城を見学し、今回の見学地をすべて終了。あとは萩を目指しました。帰りのバスの中では恒例となったビッグ大会。どんな景品が当たるかわくわくしながら一喜一憂の緊迫したひとときでした。

参加者は和気あいあいと旅行の楽しさを味わい、親睦を深めることができました。

参加者が年々減少しています。来年以降も続けたいと思いますので、ぜひご参加ください。

たまには仕事のこと忘れ、羽目を外すのもええんじゃない?!そだねえ。

配分金所得と確定申告について

シルバー人材センターで得た「配分金収入」は所得税法上「雑所得」に区分され、六十五万円まで控除されます。一月下旬に「配分金支払証明書」を用意しますの
で、確定申告で必要な方は、各自で手続きをしてください。

平成31年 配分金支払日

1月25日(金)	2月25日(月)
3月25日(月)	4月25日(木)
5月24日(金)	6月25日(火)
7月25日(木)	8月23日(金)
9月25日(水)	10月25日(金)
11月25日(月)	12月25日(水)



広報委員会 構成員

委員長	長岡 繁雄
副委員長	長山 雅範
委員	長谷 義明
委員	上田 勝
委員	齋藤 敏男
委員	森田 直人
委員	高壽 良行

編集後記

最近読んだ雑誌に『古くから伝わる御詠歌「七福」の一節に、「布袋和尚 限りなき宝の布袋みてはげめ笑う門には福来たるなり」とあります。笑ってばかりもいられない世情であればこそ、酒々落々たる布袋さんにあやかっつて、おおらかさを失わずに進んでいきたいものです。』と有りました。平成三十年は自然災害痛ましい事件事故など多い年では有りませんでした。が、本年が、世の中の至るところにたくさんの笑顔が見られるような年になることを、心から冀う次第です。笑う門には 福きたる 毎日毎日「一笑」

